

参考資料 歯磨剤と洗口剤

歯磨剤の成分

研磨剤	30-50%	界面活性剤(洗剤)	1-3%
安定剤、乳化剤	10-30%	香料	1-2%
水	10-25%	治療薬	0-1%

研磨剤の評価に用いられる値

RDA: Radiational Dentine Abrasion の略。ヒト抜去歯に中性子を放射しておき、研磨試験機を用いて象牙質を研磨した際に生じる微量の磨耗成分の放射線を比較する国際的な研磨試験法。

現在研究されている主な洗口剤

広域スペクトル消毒剤

- クロルヘキシジン
- リステリン
- トリクロサン
- 塩化セチルピリジニウム(CPC)
- 亜鉛、フッ化スズ、イソジン
- フッ素

クロルヘキシジン

洗口剤 0.1%と0.2%

デンタルジェル 1.0%

歯肉縁下のチップ(徐放) 2.5mg

チューイングガム 5mg

細菌の表面に付着+中に入り込む→細胞壁を破壊、細胞壁のタンパク質を凝固させる

抗プラーク作用のみ。抗炎症作用はない。

副作用

全身 アナフィラキシー→日本では使用が制限されており、かなり低濃度のものしか使えない(日本の製品では効果が得られない)

局所

痛みを感じる } 可逆的
味覚を阻害 }
着色

リステルン

アルコール溶液にエッセンシャルオイルが含有されている。

チモール	0.06%
L-メントール	0.04%
1.8 シオネール	0.09%
(ユーカリ属又はその近縁植物の葉を蒸留して得られる精油)	
サリチル酸メチル	0.05%
エタノール	0.05%
水	26.9%

消毒および抗炎症作用。

歯肉からの出血抑制はクロルヘキシジンのほうが 30%良い。

塩化セチルピリジニウム(CPC)

※クロルヘキシジンと親戚関係

脂溶性、陽電荷→歯や歯面と結合

CPC が付着した表層が剥離する→すぐに効果が失われる。

長期間の作用はない。

1日 6~8回 CPC } 同等の効果
 1日 2回クロルヘキシジン }

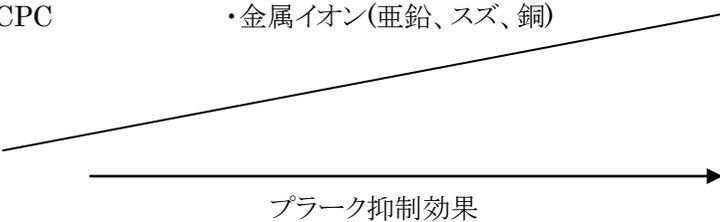
抗菌薬

デキストラナーゼ(臨床的にはきちんと証明されていない)

現在、歯磨剤、洗口剤としては販売されていない

- 酵素
- フッ素
- ハーブエキス
- CPC
- (抗菌剤)
- エッセンシャルオイル
- フェノール類
- 金属イオン(亜鉛、スズ、銅)

• クロルヘキシジン



プラーク抑制効果